

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2015年11月23日～2015年11月29日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成27年12月9日

在ジョージア大使館

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼トルコによる露戦闘機撃墜を非難する「アブハジア共和国大統領」の声明(24日)

・ハジンバ「アブハジア共和国大統領」は、「露戦闘機の撃墜は国際テロの撲滅に向けたロシアの努力を損なうものであり、強く非難する」「アブハジアは国際テロとの闘いにおいて露連邦に対する全幅の支持を表明する」との声明を発表。

・野党も同様の声明を発表した。

▼軍の共同グループの創設(26日)

・露軍と「アブハジア共和国軍」の共同グループの設置に関する合意が署名された。共同グループの設置は2014年11月に署名された「同盟と戦略的パートナーシップに関する協定」で言及されていた。「協定」によれば、軍の共同グループは「アブハジア軍」部隊と露軍部隊から構成され、侵略を駆逐し、「アブハジア共和国」国境を守ることを目的とする。

・ジョージア外務省は非難声明を発表。

【南オセチア】

▼第60回IPRM会合(26日)

・エルグネティで第60回IPRM会合が開かれた。南オセチア側の代表者がサナコエフ元「南オセチア共和国外相」に交代。特に祭日における地域住民の移動の自由や最近の拘束件数の増加について議論された。ホットラインを通じた連絡が効果的に行なわれていることが評価された。

2. 外 政

▼ジョージア語によるISILのプロパガンダ動画(23日)

・ISIL 支持派のウェブサイトで、ジョージア語を話す複数の武装した男性がジョージア国内のムスリムに対し「カリフ国」に参加するよう呼びかけ、ジョージア国内の不信心者を斬首すると脅迫している12分半の動画が公開された。動画は「ジョージア国民へのメッセージ」と題され、ロシア語の字幕とISILのロシア語メディア「arm Furat」のロゴがついている。

・1人の男性は、「イラクやアフガニスタンでイスラムと長い間戦っているジョージアの不信心者たち」に対して、ムスリムの迫害を止めるよう述べ、「イスラムに対するお前たちのいかなる行動も見過ごされない。お前たちを斬首するときはすぐにやってくる」「カリフ国はジョージア

から非常に遠く、ジョージアに達することができないと考える者は誤っている」と述べている。

・ジョージア国家保安庁は動画に関する捜査を開始したとして、メディアに対し、「脅迫を含む動画」を拡散させないよう求めた。

・24日、タラクヴァゼ内務次官は、動画はジョージアでの具体的な行動を示唆したものではなく、「パニックを引き起こす」ことを企図したものであったと述べた。

・24日、内務省は動画の掲載されたウェブサイトを含む複数のISIL関連のジョージア語ウェブサイトへの国内からのアクセスを遮断したことを認めた。

▼ラトビア外相のジョージア訪問(24日)

・リンケヴィチュウス・ラトビア外相がジョージアを訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領、ウスパシヴィリ国会議長、ガリバシヴィリ首相、クヴィリカシヴィリ外相らと会談し、南オセチア行政境界線付近の状況を視察。

・「ク」外相との会談後に開かれた共同記者会見で、「リ」ラトビア外相は、ジョージアはEUとの査証自由化に向けて全ての必要な措置を行なったとして、欧州委員会の報告書が発表された暁には直ちに決定が下されるべきだと述べた。また、司法改革を含む改革の継続の重要性を強調。

▼NATO・ジョージア委員会会合(24日)

・ブリュッセルにてNATO・ジョージア委員会会合が行なわれ、バクラゼ欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣、ドンドゥア外務次官らが出席。2015年の年次国家計画(ANP)の進捗をNATO側は肯定的に評価。

・「バ」国務大臣はストルテンベルグNATO事務局長と会談した。

▼ジョージアをめぐる欧州議会での討論(25日)

・欧州議会ではジョージアに関する討論が行なわれた。ステリアニデス人道支援・危機管理担当欧州委員は、欧州委員会の立場として、DCFTAの実施およびEU法に適合させるための法整備が良い速度で進んでいるとしつつ、来年の国会選挙を前にして「落ち着いた環境」を保障し、司法やメディアの自由を尊重する必要性を指摘。EUはルスタヴィ2をめぐる裁判を含む注目すべき審理を注視していると述べた。また、EUとの査証自由化に関しては「肯定的な兆候」が見られると述べた。

・欧州人民党は、統一国民運動関係者に対する「政治的な迫害や選択的司法」、ルスタヴィ2をめぐる「受け入れられない事態」、ジョージア国内に見られるスターリン像の再建の動きなどを「ソ連の負の遺産」として批判。

▼内相のアゼルバイジャン訪問(26日)

・ムゲブリシヴィリ内相がアゼルバイジャンを訪問。アゼルバイジャンのアリエフ大統領、ウスボフ内相と会談。地域的な安全保障や、組織犯罪やテロとの闘いにおける両国の協力について議論した。

▼東方パートナーシップ閣僚級非公式会談(26日)

・トビリシにて、東方パートナーシップ 6 カ国の閣僚級非公式会談が行なわれた。6 カ国からは、アゼルバイジャン、アルメニア、ジョージア、モルドバの外相、ベラルーシの外務次官、ウクライナ外務省欧州局長、ハーン EU 近隣政策・拡大交渉担当欧州委員、シュミット欧州対外行動庁副長官らが参加。

・並行して、アルメニアとジョージアの保健大臣およびその他 4 カ国の保健省高官が集まって保健分野での協力を話し合う会議も行なわれた。

・ナルバンジャン・アルメニア外相は、ユーラシア経済同盟に参加しつつも、EU との互恵的な協力を発展させたいと述べた。クプチナ・ベラルーシ外務次官は、将来単一の経済圏をつくりだすため、ユーラシア経済同盟と EU との対話と協力が必要であると強調した。

・会議に並行して、ハーン欧州委員はマルグヴェラシヴィリ大統領、ウスパシヴィリ国会議長、ガリバシヴィリ首相、与野党の国会議員、イリア II 世総主教、市民グループ代表者らと会談。

▼国防相の訪独(27日)

・27 日、ドイツを訪問したヒダシェリ国防相はライエン独国防相、ホイスゲン独首相外交・安全保障政策補佐官と会談。「ヒ」国防相は、会談は非常に肯定的なものであったとして、「『ラ』独国防相はジョージアに対する全幅の支持を再確認し、世界の安全に対するジョージアの貢献に感謝を表明した。ドイツの支持を得て、我々は二国間関係および NATO・ジョージア関係を新たな段階に進めることができると確信している」と述べた。

3. 内 政

▼国境警備の強化(24日)

・内務省によれば、11 月 13 日にパリで起きたテロを受け、国境警備を強化したことにより、11 月 14 日から 11 月 24 日までの間に外国人 479 名のジョージアへの入国を拒否したと発表。また、不法な国境の通過により外国人 31 名、ジョージア国民 1 名を逮捕したと発表。

・28 日、イゾリア国家保安庁副局長は、ジョージアから

シリアへの戦闘員の移動は以前より大きく減ったとして、現在、約 50 名のジョージア国民がシリアの過激派集団に加わって戦闘に参加していると述べた。

▼新しい検事総長の就任(27日)

・国会でショタゼ検事総長候補者をめぐる採決が行なわれ、賛成 82 票、反対 15 票で信任された。2012 年末に連合「ジョージアの夢」が政権に就いて以降、4 人目の検事総長となった。任期は 6 年。

・2006 年より検事。2010 年から財務相調査局局長。2013 年 11 月に次席検事に任命された。

4. 経 済

▼2015年1月～10月の貿易収支(24日)

・国家統計局が発表。貿易額 8,121 百万ドル(前年同期比 14%減)、輸出額 1,832 百万ドル(同 24%減)、輸入額 6,289 百万ドル(同 10%減)。貿易収支は 4,457 百万ドルの入超。

・貿易相手国の内訳は EU 諸国 32%、CIS 諸国 28%。国別では貿易額の多い順にトルコ、アゼルバイジャン、中国、ロシア、ウクライナ、ドイツ、アイルランド、ブルガリア、米国、アルメニア。

▼EUによる1億ユーロの支援パッケージ(27日)

・欧州委員会はジョージアに対する新たな 1 億ユーロの支援パッケージを発表。欧州委員会によれば、支援パッケージは行政(300 万ユーロ)、農業および農村開発(500 万ユーロ)、エネルギー、交通、通信、環境、犯罪対策などの分野における EU 基準への適合(1400 万ユーロ)、市民社会の活性化(600 万ユーロ)の支援を目的としたもの。

▼国会が2015年予算への修正を承認(27日)

・国会は政府が提出した 2015 年予算の修正を承認。健康保険に対する歳出を 96 百万ラリ増額。税収目標が 7,520 百万ラリへと 120 百万ラリ引き上げられた。予算の増額は今年下半期で 2 度目。

・野党は、現行の健康保険制度は長期的に持続可能な制度ではないとして批判。

・予定されていた道路修復作業の遅れのため、地域発展・インフラ省の予算は 76 百万ラリ減額。